



えんどう ひであき  
**遠藤 英明** 議員  
(蒼天)

## 国連が提唱する「SDGs」の富士宮市における取組について

**問** 富士宮市は、令和元年を「SDGs元年」と位置づけ、その取組に着手した。その背景と現状について伺う。

**部長** 地方自治体が抱える諸課題に対して効果的にアプローチすることにより、様々な効果が期待できるとしてSDGsに取り組むメリットがあると考え着手した。現状としては、地域や学校などへの出前講座を実施した。

**問** 長期の政策目標（2030アジェンダ）としての富士宮市の達成すべきビジョン、活動目標、実行、進捗管理はどのようなものか。

**部長** 現在のところ、SDGsに取り組むための具体的な取組方針や活動目標は考えていない。

**問** 設定した指標の中で富士宮市アイデンティティを表現する独自の指標、あるいは目標はどのようなものか。

**部長** 各種計画にSDGsの視点を取り入れて、富士宮市の強みを伸ばし、弱みを改善していく。

**問** 富士宮市のアクションプログラム（総合計画、都市計画マスタープラン、環境基本計画等の各種計画）にSDGsの要素を反映し、進捗を管理するガバナンス手法を確立すべきだと思いがいかか。

**部長** 世界共通目標であるSDGs持続可能な開発目標、この視点を取り入れ、世界に誇れる国際文化都市を目指した計画とすることとする。

**問** 政府主導のSDGsアクションプラン2019の骨子「SDGsと連携するSociety5.0推進」をまち・ひと・しごと創生総合戦略の次期作成に組み込んでどうかと思いがいかか。

**部長** 次期まち・ひと・しごと創生総合戦略の中にも積極的に組み込んでいきたいと考えている。



わたなべ よしまさ  
**渡辺 佳正** 議員  
(日本共産党議員団)

## PCR検査体制の充実と保健所の体制強化を

**問** 医療、介護、保育、教育施設などで、新型コロナウイルスの感染者が確認された場合、その関係職員を全員検査できる体制の整備についてどう考えるか。

**部長** 静岡県は県全体検査数を1日1000件まで高めるとしているがそれ以上の対応は難しい。

**意見** 県全体で1000件というのは、あまりにも少ない。第2波、第3波に向けて、いっそうの検査体制拡大を県に要望してもらいたい。

**問** 保健所の体制強化について、国に要望を上げるべきではないか。

**市長** 当初は保健所の相談センターへの電話がつながりにくかったが、その後の人員体制強化で、市との連携は十分にとれている。

## 新型コロナウイルス感染症対策としての生活支援について

**問** 家庭内暴力などの事情で世帯主から10万円の特別定額給付金を受け取れない市民に対して、何らかの対策を講じるべきではないか。

**部長** 世帯主が受給権者の制度だが、家庭内暴力など相談も受けている。今後国から求められれば、制度改善の意見を上げていく。

**意見** 「意見を求められたら」ではなく、現場の意見を積極的に上げていくべき。

**問** 緊急小口資金と住居確保給付金の申請件数はどのように増加しているか。

**部長** 緊急小口資金は令和元年度4件だったが令和2年度は6月末までで211件、住居確保給付金は令和元年度7件だったが令和2年度は6月末までで27件とそれぞれ急増している。

**意見** 緊急小口資金は「支給されるまで3週間かかる」と説明されたケースがある。市・県の相談窓口などの人員体制を抜本的に強化し、税金などの減免制度とともに、制度を市民に周知徹底する必要がある。